資料１

第２回図書館協議会議論から主な意見について（まとめ）

１．主な意見

障害福祉センターひまわりからの情報提供を受けて

・疾病などで後天的に障害をかかえる人にはどのようにアプローチしているのか。障害者手帳制度について周知されているのか。

・障害者手帳の取得に消極的な人もいる。図書館サービスを考えるにあたっては、障害者だけを対象ととらえず、誰もが使いやすいという観点をもつことで、サービスを必要とする人に届けられることもあるのではないか。

・学校でも障害のある生徒へ特化したサポートをするのではなく、みんなが過ごしやすいように考え、取り組んで、成果が出ている。公共図書館でも同じように考えられるのではないか。

（点訳他支援ボランティア講座の参加者減少ということを受けて）

・支援ボランティアの募集告知を図書館内でするだけでも効果があるのでは。

・中学１年生でボランティア体験学習に取り組むことが多いが、そういう機会を利用して若年層に支援ボランティアの活動への関心を持たせる可能性が考えられる。

当事者ニーズを把握することについて

・ニーズの調査は大切だが、把握したものをどうサービスに反映させていくのかが難しい。

・障害者用資料の展示などに際して、簡単なアンケートを実施してはどうか。

・障害者のニーズを考えるとともに、障害者を含むすべての人へ働きかけることも必要ではないか。例えば図書館資料の多様性に触れて、住民の多様性への気づきにつながることもある。

・展示等、見て、触れて体験することは人に伝わりやすい。できることから取り組むのは大事。

・児童生徒にとって身近な学校図書館でも障害者用資料と接する機会をつくれないか。そうして興味関心が高まることで公共図書館にもうまくつなげられないか。

・大学生でも障害者用資料に実際に触れて学ぶことが多い。

・障害者だけを対象にすると、自分とは関係のないことと受け止める人が多い。図書館がひろく情報提供していくことで、幅ひろくニーズが図書館にもたらされることも考えられる。

以上

【第３回協議会事前資料】

・第２回図書館協議会議論の中から主な意見について（まとめ）

・障害者用資料を用いた館内展示事例報告

・視覚障害者等の読書や情報入手に関する主な調査一覧

・点字利用と読書に関するアンケート調査の結果について（抜粋）

・視覚障害者等の読書における技術的な課題等に関する調査研究【報告書】（抜粋）